

社会福祉法人翠燿会

平成 26 年度グリーンヒル事業報告書

特別養護老人ホームグリーンヒル
グリーンヒル短期入所生活介護
グリーンヒル居宅介護支援事業
グリーンヒルデイサービスセンター
グリーンヒル訪問介護
グリーンヒル福祉タクシー

特別養護老人ホームグリーンヒル八千代台
グリーンヒル八千代台短期入所生活介護
グリーンヒル八千代台居宅介護支援事業
グリーンヒル八千代台小規模多機能型居宅介護
小規模多機能型居宅介護サテライト・グリーンヒル勝田台
グリーンヒル八千代台訪問介護
グリーンヒル八千代台キッズルーム
グリーンヒル八千代台南デイホーム

八千代市勝田台地域包括支援センター
介護予防支援事業

法人総務課

平成 27 年 5 月 25 日

社会福祉法人 翠燿会

【平成 26 年度事業報告】

特別養護老人ホーム・短期入所生活介護 グリーンヒル

1) 目標稼働

- ・平成 25 年度は特養と短期の平均数を 118.2 であったが平成 26 年度は 115.1 と目標であった 117 を達成できず、年間平均稼働率 96% でした。
- ・介護度 4・5 の割合は目標 70% を 84.3% とし、介護福祉士の有資格者保有割合達成、喀痰吸引の必要なご利用者 15% を維持することで日常生活継続支援加算の算定継続。
- ・平成 25 年 5 月より短期入所生活介護の看護体制加算 I・II を平成 27 年 3 月迄算定できていたが 4 月以降は算定困難となる。
- ・療養食加算算定者数、平成 25 年度末時点で 24 名であったが、平成 26 年度末時点 27 名と推移した。

2) 組織体制の強化

- ・平成 25 年度より設立した生活向上委員会が上記同様、看護・栄養・介護の協働による効果が徐々に確立され、ご利用者の ADL の向上に伴い、職員のモチベーションに繋がってきている。
オムツ使用率 平成 25 年度 45% 26 年度 31 パーセント
金額にして 88 万円の削減
- ・26 年度後半より **ホスピタリティケア** に取り組みつつあり、次年度に向けても力を入れて取り組んでいきたい。

3) 平成 26 年度総括

- ・年間平均稼働数 115.1 の結果ではあるが、入院延べ日数に関して平成 24 年度 2,396 日、25 年度 1,534 日、26 年度 1,383 日と入院者の推移が減少傾向であり多職種での連携（看護師・介護士・栄養士・機能訓練指導員・施設ケアマネージャー・医師・生活相談員）に伴った数値と考察される。
- ・26 年度の人材確保は困難を極める状況であった。夜勤を行える中堅職員、特に男性職員の退職に歯止めが掛からない中で入職者がこない状況が今日まで尾を引いており、夜勤勤務の出来るケアワーカーの減少により、現状夜勤回数が平均的に一ヶ月 5.8 回となりシフト調整を行い日勤帯で一人削減して対応策を打ち立てるが日勤帯に正職等が不在な状況において、ケアの質の低下を招いている部分が出て来た。

H26 年度事業計画報告書

医務課(グリーンヒル・グリーンヒル八千代台)

看護体制が整った中で、健康管理には日々努力してきましたが、上高野・八千代台ともに癌の発症や度重なる肺炎などで逝去されることが続いた1年でした。年ごとに入所者個人の年齢も増していく中、元気に生きながらえることの手助けに力不足を感じる年だったと考えています。

入院者は、5~10名と数カ月続き空床が出来てしまったことは損失につながったのですが不可抗力でもあったと考えます。

H26年4月~H27年3月死亡者数

グリーンヒル・・・12名（看取り3名・突然死2名・病院入院中死亡7名）

グリーンヒル八千代台・・・13名（看取り11名・病院入院中死亡2名）

看取りについては、医師の考え方によっても左右されます。病院は、救命することに重きを置かれるため死亡はタブーとされている風潮にあるため仕方ないことですが、国の施策を施設ばかりではなく病院のほうも理解し柔軟な対応をお願いしたいものです。

3年程前から、国立長寿医療研究センターの研究に参画し、看取りの振り返りについてアドバイスを頂いております。関わった職員全員がアンケートを記入する中で、毎回、<〇〇してあげたかった><時間がなかった>など様々な意見が書かれてあります。前回できなかったことを今看取り介護中の方にしてさしあげることに繋げなければ、ケアの充実・自分自身の満足感や達成感にも繋がらないと考えます。また、看取り期になったからではなく、いつその時が来ても後悔しないためにホスピタリティーケアが日々必要になるのではないのでしょうか。

時期的な流行感染症は、グリーンヒルのみインフルエンザAに3名罹患しましたが、大幅に広がることもなく早期の感染対策の連携が取れていた結果であり、職員全体の予防に対する意識を高める喚起が出来たのだと実感しています。

医務課内では、利用者個人の理解のため、KOMIチャートを取り入れて現在進行中であるが、時間の余裕が持てないことや利用者数の違い、不得手なことは後回しになってしまいがちなので、上高野・八千代台での進行状況に差が出ています。今後、研修会参加を計画しているので、参加者から伝達講習をしてもらい実践につなげられるようにします。

平成27年度 管理部栄養科 事業実績報告・事業計画案

グリーンヒル栄養管理室 グリーンヒル八千代台栄養管理室

栄養科の理念

- ・ご利用者の健康状態や身体状況に応じた栄養管理(栄養ケアマネジメント)サービスを多職種と協力して行い、個人にあったADLの維持・向上に努めます。
- ・ご利用者にふさわしく安全で質の高い食事サービスを提供します。

サービスの重点項目

サービスの内容

特定給食施設の管理

平成27年度 利用者食事摂取推奨量				2015年版、日本人の食事摂取基準に準拠			
GH 平成27年 4月1日 現在				GH八千代台 平成27年 4月1日 現在			
エネルギー	1607kcal			エネルギー	1638kcal		
蛋白質	60.3g			蛋白質	61.4g		
平成26年度 グリーンヒル入所者				平成27年度 グリーンヒル入所者			
	男性	女性	平均		男性	女性	平均
入所者	20名	81名		入所者	22名	84名	
年齢	728歳	86.1歳	79.4歳	年齢	76.4歳	86.4歳	84.3歳
介護度	3.5	4.2	3.9	介護度	3.6	4.3	4.1
平成26年度 グリーンヒル八千代台				平成27年度 グリーンヒル八千代台			
	男性	女性	平均		男性	女性	平均
入所者	6名	22名		入所者	8名	19名	
年齢	87歳	85.4歳	86.2歳	年齢	87.5歳	83.3歳	80.9歳
介護度	4.3	4.2	4.3	介護度	4.5	4.5	4.5

基本方針

- ・献立は四季4サイクルメニュー
- ・週間献立表による栄養成分表示有
- ・療養食
- ・嚥下調整食による食事形態(栄養機能食品・栄養補助食品の併用)
- ・生活向上(QOL)の一環に則したメニューの取り組み
- ・リクエストメニュー、イベントメニュー
- ・栄養改善

食形態(一般・摂食・嚥下調整食)

経口栄養: 一般常食、軟菜食、刻み食、ペースト食、シェイク風、やわらか食
 経腸栄養法: 高栄養流動食(滴下型)など
 : 半固形高栄養流動食

長期特養・短期(介護・予防)・通所介護

- ・ユニットの特性に合った適時適温の食事提供
- ・リクエストメニュー(3回/月)実施
- ・お楽しみクッキング実施
- ・歳時の行事食・行楽弁当・もちつきなど(五節句、二十四節気のもてなしメニューとして)
- ・療養食・利用者の疾病状況等に応じて医師の指示に基づく約束食事箋に基づく、療養食の提供
- ・経口移行食、経口維持食(トレーニング食、個別の食事形態)(氷砕片飲み込み検査、水飲みテスト、頸部聴診法など)
- I、II「食物テスト(food test)」・・・医師の指示
- ・個別対応食(やわらぎ膳(看取り膳に準ずる、ミキサ一食対象者)
- ・分割食(5回食)
- ・庇護食
- ・低栄養状態(PEM)による栄養強化食、補食
- ・PEG(胃ろう造設者)の栄養管理
- ・PTEG(経皮経食道胃管挿入者)
- ・PEJ(経皮内視的空腸瘻造設者)

利用対象者

特養入所者、短期入所利用者、デイサービス利用者、職員など

デイサービス、小規模多機能はケアの一環として、職員による共食は継続する。

供食時間

6:30 10:00 11:40 15:00 18:00 19:00
 朝食 おやつ 昼食 おやつ 夕食 下膳

・クックチル方式(パッキング調理)による翌朝献立分を前日にユニットヘケータリング

食事形式

ユニットケア(6ユニット)形式導入

- かなで、桜草 ……3丁目
- 大和、なでしこ ……2丁目
- あやめ、すずらん……1丁目
- *衛生安全管理は随時啓発し、徹底する。
- *ユニットにおける調理、配膳おやつ、水分補給の内容を把握する。
- *職員(介護者)の健康チェックとして下痢症状の時には、食事介助は禁忌。
- *感染症の拡大防止を図り、汚染を防ぐ啓発活動

食数実績・目標数	食数目標数	H27年度	H27年度	食数実績	H26年度
	グリーンヒル	利用者	130000食	利用者	129728食
	職員	14400食	職員	14390食	
グリーンヒル	利用者	50500食	利用者	50222食	
八千代台	職員	7000食	職員	6955食	
	合計	201900食		201295食	
フードサービス形態	給食業務完全委託方式			<ul style="list-style-type: none"> ・災害時発生時の対応、マニュアル化 ・食中毒発生時のマニュアル化 ・大量調理施設マニュアルに準じる ・衛生安全管理の維持徹底 ・特別な個別膳(ミキサー食) 	
非常用食品の確保	・天災害時の調理を必要としない 食事サービスとして備蓄食品			<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄食品(非常用食品)の保管は汚染防止するための設備・コンテナ内に保管する。(資料 献立表 有) ・行事企画内容により別途料金徴収することもある。 ・個別対応食(やわらぎ膳)は誕生日会費より個別充当 ・職員、実習生、外来者への予定実施計画 	
行事食	・施設諸行事に伴う食事支援 ・施設内研修に伴う食事提供			<ul style="list-style-type: none"> ・行事企画内容により別途料金徴収することもある。 ・個別対応食(やわらぎ膳)は誕生日会費より個別充当 ・職員、実習生、外来者への予定実施計画 	
会議	栄養委員会 ・給食会議(食事委員会と調整連絡) ・NCM会議 ・経口維持Ⅰ・Ⅱ会議			グリーンヒル 定例 第3木曜日 午前9時30分～ 会議室 グリーンヒル八千代台 日時不定期 1回/月	
栄養ケア・マネジメント	基本方針 Ⅰ. NCMサービス			①食事調査実施 ・食事喫食量・水分摂取量・排尿量記入表	
栄養管理	4回/年スクリーニング実施			・生活と身体の状態記録(介護・看護・栄養記録)	
	Ⅱ. 経口維持実施 経口移行 Ⅰ・Ⅱ			内容 身体計測、摂取目標量、 摂取状況調査項目、栄養アセスメント *食事調査評は利用者の共有個別資料とする。 (但し、持ち出し禁止、厳守)	
	Ⅱ. 低栄養状態の改善 H27年度の入所者の健康診断の結果を踏まえて、Ⅰ、NCMサービス ①・②を構築する。 として、エビデンスに基づいたハイ リスクアプローチ改善策を Plan→Do→Check→Action 専門多職種との協働ケアとする。 (医師-看護職-介護職-OT- 栄養士-ケアマネージャーなど)			②低栄養状態の改善として、栄養計画による ・食事・栄養管理、評価判定を行う。 ・低栄養状態の改善目標として、栄養強化食品 を推奨する。(但し、個別管理品は個別負担とする。)	
	Ⅲ. 入所者の食事、栄養ケアの 管理計画			<ul style="list-style-type: none"> ・栄養強化食品などの研修・説明会、開催 ・ケアプラン、カンファレンス、担当者会議に参加 ・臨床栄養師研修(基礎・中級指定講座) 認定取得 	
本年度の課題	①教育研修計画 グリーンヒルにおける給食経営管理 ・栄養ケアシステムの向上			<ul style="list-style-type: none"> ・看護、介護、栄養の専門性の向上を図る 	
	②所轄の保健所の研修参加			<ul style="list-style-type: none"> ・給食栄養管理の改正に伴う帳票管理 	
	③グリーンヒル(CK)とグリーンヒル 八千代台(SK)の給食はデリバリー方式、 セントラルキッチンでの大量調理を導入 レイバースケジュール(業務別人員配置) に変更し、3～4日/w稼働することにより、 人員体制、作業効率性に進展させる			<ul style="list-style-type: none"> ・給食経営管理部門として一全面委託化 業務委託、食材料費委託 ・CKグリーンヒルのイベント、栄養委員会など グリーンヒル八千代台(SK)と連携・提携区分、 分離区分を明確化する。 	
	④施設管理栄養士のシフト編成			<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンヒル 8:30～17:30 ・グリーンヒル八千代台 8:30～17:30 	
	⑤給食栄養利用者向け広報誌発刊(4回/年)			<ul style="list-style-type: none"> ・GH, GH八千代台各ユニットに配布 	

栄養ケア・マネジメントに関する評価							
施設サービス							
・栄養ケア・マネジメント加算 14単位/日(長期入所者全員)							
・経口移行加算Ⅰ 400単位/月							
・経口維持加算Ⅱ 100単位/月							
要件 多職種協働によるミールラウンド実施 (NCM実施が必須条件)							
・療養食加算 18単位/日							
居宅サービス							
①介護予防(認知症対応型) 栄養改善加算 150単位 (低栄養状態にある又はおそれのある利用者に対して)							
②認知症対応型通所介護 栄養改善加算 150単位 (月2回限度、原則3ヶ月) (低栄養状態にある又はおそれのある利用者に対して)							
③訪問栄養改善サービス 介護予防居宅療養管理指導 530単位/月							
NCM推進対策目標・計画							
※通所介護 小集団による“おいしいおはなし” ※通所介護広報誌“おいしいおはなし”6回/年							
※勝田台元気クラブ 小集団による“栄養について、バランス食のおはなし”実施 1回/年							
※臨地実習生受け入れ 2週間(聖徳大学人間栄養学科管理栄養士専攻3年次3名) (昭和女子大学生活科学部生活科学科3年次2名)							
※歳時の行事食(敬老会、納涼会、クリスマス会、新年顔合わせ)							
※作業療法士(OT)と連携し、“食べること”に係る摂食動作、姿勢、環境に関すること 食具、自助食器の評価を行なう							
※長期、短期入所者の入所時、退所時の栄養相談、医療との連携							
							以上

平成26年度 グリーンヒル特養・短期 実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
月末利用登録者	102	103	105	103	103	103	103	101	101	101	103	106	103
入所延日数	3,039	3,156	3,130	3,247	3,202	3,100	3,178	3,054	3,154	3,132	2,854	3,075	3,110
入院延日数	36	78	73	151	146	86	78	117	167	160	125	166	115
利用実日数	3,003	3,078	3,057	3,096	3,056	3,013	3,097	2,937	2,987	2,972	2,729	3,075	3,008
1日平均利用者数	100.1	99.3	101.9	99.9	98.6	100.4	99.9	97.9	96.4	95.9	97.5	99.2	98.9
平均介護度	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1
(介護度4・5割合)70%	83.3%	83.5%	83.8%	84.3%	84.3%	83.7%	83.4%	85.0%	85.7%	85.7%	83.1%	85.2%	84.3%
新規入所者数	2	2	3	0	1	3	2	0	2	1	5	4	2
退所者数	1	1	1	2	1	4	1	2	1	1	4	1	2
負担限度額認定者	86	86	87	83	82	82	82	81	81	80	83	84	83
短期請求件数	40	40	38	36	42	39	37	33	36	36	36	34	89
短期入所延日数	498	588	457	493	530	454	483	430	503	585	472	436	494
特養・短期合計延日数	3,501	3,666	3,514	3,589	3,586	3,467	3,580	3,367	3,490	3,557	3,201	3,511	3,502
特・短1日平均数(予算117人)	116.7	118.3	117.1	115.8	115.7	115.6	115.5	112.2	112.6	114.7	114.3	113.3	115.1
稼働率/120	97.3%	98.5%	97.6%	96.5%	96.4%	96.3%	96.2%	93.5%	93.8%	95.6%	95.3%	94.4%	96.0%
前年度稼働率	97.0%	99.9%	99.9%	99.2%	98.8%	99.1%	98.9%	97.3%	98.0%	98.8%	98.6%	97.4%	98.6%
前年度との比較	0.3%	-1.4%	-2.3%	-2.7%	-2.4%	-2.8%	-2.7%	-3.8%	-4.2%	-3.2%	-3.3%	-3.0%	-2.6%
介護福祉士取得者	33/19	33/19	33/19	33/19	33/19	33/19	33/19	33/19	32/19	32/19	32/19	31/19	

平成 26 年度事業報告

グリーンヒル居宅介護支援事業所

1. 目標稼働

- ・計画作成者数・・・予防平均 13 名
給付平均 117 名
- ・新規作成者数・・・予防 6 名
給付 60 名
- ・認定調査人数・・・74 名
- ・その他に加算等があり

2. 平成 26 年度総括

- ・平均計画数は目標数までには行かなかったが、今年も困難ケースや生保の方の依頼が地域包括から主任ケアマネに依頼したいと話しを頂くことが多かった。また、依頼はあったがサービスに繋がらないケースや入院して終了に出来ないケース等もあった。
予防に関しては今後のあり方が不透明だった為、積極的には受けなかった為、平均が 13 名となった。しかし、現在は 16 名の方の計画作成を行っている。
- ・認定調査は佐倉、船橋は毎月依頼がある。その他の市町村も依頼があり、多い月には断る時もあるができるだけ受けるようにしている。
来年度は八千代市の認定調査も受ける。
- ・特養がホスピタリティケアに取り組んでいるので、ケアマネも今後は学んでいきたい。

平成26年度 グリーンヒル 居宅介護サービス計画 実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
目標件数(予算)	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120
請求件数	119	119	118	119	118	112	113	114	127	112	117	121	117
前年件数	112	109	111	119	109	116	127	127	119	112	116	120	116
新規利用者	5	5	1	8	5	8	5	14	4	1	7	5	6
休止・中止利用者数	2	1	3	2	1	3	2	2	2	4	2	4	2
要介護 1	39	36	31	34	31	27	28	29	33	30	28	34	32
要介護 2	32	32	36	35	35	36	37	36	36	34	32	36	35
要介護 3	19	17	18	20	21	20	21	19	27	20	24	19	20
要介護 4	14	19	16	15	17	15	14	18	18	17	19	19	17
要介護 5	15	15	15	14	14	14	13	12	13	11	14	13	14
合計	119	119	116	118	118	112	113	114	127	112	117	121	117
稼働率	99.2%	99.2%	98.3%	99.2%	98.3%	93.3%	94.2%	95.0%	105.8%	93.3%	97.5%	100.8%	97.8%
予防介護支援件数	10	10	11	10	9	14	14	14	16	16	16	16	13

平成26年度グリーンヒル通所介護事業報告

1) 【26年度の状況】

26年度につきまして、1日平均利用28名を目標に日々努力してまいりましたが、結果1日の平均利用25名と、当初目標としていた人数より1日平均3人の減少となってしまった。

年間通して、相談員などが他の事業所に訪問し広報活動など行い、新規の利用者を獲得してはいるものの、サービスの中止となる方の割合が多く、年間30名程の新規利用者に利用いただいたが、なかなか厳しい結果となってしまった。今年度については、施設入所や短期入所の利用などへの移行だけではなく、長期の入院等医療的なケースも多く感じた。

サービスの状況については、26年度当初より職員人数の減少もあったため、プログラムの内容を変更し行っていた。全体での外出などなかなか職員人数上厳しい現状でもあった為、プログラムの内容を検討し行っていた。

2グループにて行った、グループケアについては、ご利用される方々の様々な心身の状況により、過ごしやすい環境作りとしては良く、今後も継続していきたいと思う。

2) 【27年度目標】

前年度の状況を踏まえ、平均27人を目標として、4月より作業療法士の配属もあり、機能訓練をはじめ在宅生活の継続を支援できればと考えています、地域包括ケアシステムの構築に、少しでも地域に根ざしたデイサービスとして、今後は進めていきたい。

平成26年度 グリーンヒルデイサービス 実績報告

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度平均
登録人数	72	70	71	70	71	75	78	75	75	70	74	75	73.0
利用者数	69	68	68	67	69	69	71	73	73	68	71	72	69.8
新規利用者	2	1	1	2	3	4	3	1	2	2	3	2	2.2
登録中止利用者数	4	0	0	2	2	0	0	4	0	6	0	2	1.7
運営日	26	27	25	27	26	26	27	25	26	24	24	26	25.8
延べ人数	672	668	644	666	638	649	692	630	656	557	595	677	645.3
予防人数	7	7	8	6	7	6	6	6	7	7	8	8	6.9
要介護人数	62	61	60	61	62	63	65	66	66	61	63	64	62.8
合計	69	68	68	67	69	69	71	72	73	68	71	72	69.8
平均介護度	2	2	2.1	2.1	2.2	2.2	2.3	2.3	2.2	2.3	2.2	2.1	2.2
1日平均利用者数	25.8	24.7	25.8	24.7	24.5	25	25.6	25.2	25.2	23.2	24.8	26	25.0
前年平均利用者数	27.7	26.9	27.6	27.2	25.3	26.4	27.2	26.7	25.9	25.6	25.5	25.3	26.4
生きがいデイ利用者数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0.1
特定高齢者利用者数	7	7	7	3	3	3	7	7	7	7	7	7	6.0

平成26年度訪問介護事業報告

【1】 26年度の状況

26年度は、月110人目標としていましたが、月平均106人と当初の目標より平均4人目の減となってしまった。

年度半ばには、月117人の利用があったものの、年度末にかなりの減少があり、このような状況になった。

要因としては、医療機関への入院者が多くいたことが考えられる、新規の利用者はある程度いたがその半数に値する人数のサービス中止があった。

【2】 27年度の目標

27年度についても、月の目標を110人として職員全体で取り組んでいきたいと考えています。

現状、職員が1名3月に退職していることや、登録ヘルパーの現状も踏まえ、今後の人員配置も検討したい。

平成26年度 グリーンヒル 訪問介護 実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
目標人数(予算)	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
実績人数	107	100	111	112	105	105	109	117	110	104	96	98	106
前年実績人数	110	105	107	106	103	111	109	111	116	111	107	105	108
実績内訳													
予防人数	37	34	33	36	32	36	38	40	38	36	33	34	36
予防新規件数	0	1	1	2	2	2	1	3	0	0	0	0	1
予防 休止・中止件数	0	3	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
要介護人数	70	66	78	76	73	69	71	77	72	68	63	64	71
要介護新規件数	0	2	5	1	4	1	2	5	2	0	0	2	2
要介護 休止・中止件数	0	0	0	0	1	3	0	1	4	2	1	0	1
内、通院等乗降介助のみ	27	23	29	25	22	23	26	28	23	23	21	22	24
ホームヘルプサービス件数	4	4	4	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3

平成26年度 総務課 事業報告

総務課

経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）に対する、有効活用・経費削減・経営状態の把握を通じて適正管理を行う。

I 「採用・育成・健康（ヒト）、情報」の適正管理

- 求職者向けパンフレットを作成する（求職者が知りたい点を重視）
⇒紙面から新ホームページへ活用媒体を見直し情報提供の構築を図る。
- ご利用者・ご家族への接遇力向上のための研修を実施する
⇒新入職員・在籍職員に対し計6回 50名に対し研修を実施した。
- 職員研修及び障害者雇用に対する助成金・奨励金を獲得する
* 目標獲得額 3,247,000円 （平成25年度 2,060,000円）
特定求職者雇用開発助成金 障害（1名） 340,000円
キャリアアップ助成金（研修費）（23名） 2,907,000円
⇒目標獲得額実績（3,247,000円）
- 生活習慣病検診（協会けんぽ）の周知を図り、予防及び早期発見の意識づけを図る
* 目標受診者 一般検診 25名以上（平成25年度 20名受診）
⇒一般検診実績 16名受診（その他、3名体調不良により予約取消

し)

II 「物品（モノ）」の適正管理

- 日用品・事務用品・消耗品の価格を見直し、適正数量で管理する
⇒棚卸在庫実績 H26.3 23万円相当から H27.3 15万円（8万円削減）
- ユニットごとの物品保管庫について、定期的に在庫確認を行い余剰在庫削減を目指す

⇒

第1回棚卸（H27.1.30実施） 42,000円相当分回収

第2回棚卸（H27.3.31実施） 6,000円相当分回収

III 「資金（カネ）」の適正管理

○消費税増税による経費の影響を把握し、日常の経費を見直す（H26.4消費税8%）

⇒物価上昇に対応し、物品や事務消耗品等の価格を見直し納入業者を検討中。引き続き見直していく。

○

介護サービスの事業ごとに食費等の実費の価格を見直し、平成27年4月からの消費税10%に備え適正価格を算定する

⇒各介護サービス事業の代表者と協議し、食費や日用品費等の価格を見直し、平成27年度介護保険改定とともに適正価格を算定した。

○月ごとに予算管理、収支状況の把握・報告を行い、適正な経営状態を目指す

⇒毎月の管理運営会議にて収支状況を報告し、予算管理及び経営状態の分析を行なった。平成 27 年度は、更に数値の内容を把握・分析していきたい。

平成 26 年度決算報告（法人全体）	～	資金収支計算書より
・事業活動収入合計		1,013,060 千円
・事業活動支出合計		949,635 千円
・施設整備等、その他の収入合計		2,023 千円
・施設整備等、その他の支出合計		41,536 千円
・当期資金収支差額		23,912 千円

以上